

三重県に大雨特別警報

津消防タイムズ

第54号



↑ 白山地域の河川氾濫状況

発行 津市消防本部
〒514-1101
津市久居明神町
2276 番地

編集 消防総務課
企画調整担当
TEL 059-254-0353
FAX 059-256-7755

火災の問い合わせ
☎059-224-1881

三重県救急医療情報センター
コールセンター
☎059-256-1199

津市救急・健康相談
ダイヤル 24
☎0120-840-299



↑ 美里地域の道路陥没現場

三重県内に大雨特別警報発表
平成二十六年八月九日、午後五時二十分、三重県全域に大雨特別警報が発表されました。台風第十一号に伴う雨雲が三重県付近にかかり続け、白山町では二十四時間雨量が約四百ミリと、観測史上最大の雨量を観測し、これまで経験したことがないような大雨となり、津市内を流れる安濃川、岩田川、雲出川などの流域に避難指示が発令されました。

○大雨特別警報とは

台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予測される、もしくは数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合に発表されます。

「特別警報」が発表されたら、ただちに命を守る行動をとって下さい。

津市内では、美里町地内の国道一六三号線で道路陥没による交通事故が発生したほか、がけ崩れや冠水、床下浸水などの被害が発生しました。津市消防では、冠水地域でのゴムボートによる救出や、消防団と協力し、土のうなどによる水防対応を実施しました。

(宮田 憲一)



↑ 美里地域で発生した崩落現場

水難救助訓練の実施

(中消防署)

六月十七日、本格的なレジャーシーズンを前に、中消防署の隊員が、津ヨットハーバーで水難救助訓練を行いました。

この訓練は、水難事故に対して要救助者を安全、確実、迅速に救出することを目的としており、今回は、三連はしごを用いて水面から陸上への引揚救助訓練と船外機付ボート操作訓練を実施しました。

参加した各隊は、隊員間の一層の連携強化と水難救助技術の向上を図ることが出来ました。

(妹尾 典宏)



↑三連はしごを活用した訓練を行う署員

第四十三回消防救助技術

東海地区指導会に出場

(西分署・久居消防署)

七月三十日、三重県消防学校で消防救助技術東海地区指導会が開催され、津市消防本部からは、西分署から「障害突破」、久居消防署から「引揚救助」の二種目に出場しました。



↑「障害突破」に出場した西分署チーム



高塀を乗り越える隊員→

障害突破は、五人一組が緊密な連携のもとに「乗り越える」「登る」「渡る」「降りる」「煙道を通る」という五つの障害を突破するという総合種目です。また、引揚救助は、呼吸器を装着した二名が、塔上から七メートル下へ降下し、塔

上の隊員二名と協力して要救助者をロープで引き上げて救出する種目で、共に、安全性、確実性、迅速性を競います。

約四ヶ月の間、全国大会出場を目指し、昼夜を問わず、厳しい訓練に励んできましたが、両チームとも全国大会への切符は逃してしまいました。

しかし、この大会を通じて得た、体力、精神力、技術力、そして悔しさは、選手達にとっても大きな財産となり、今後の災害現場での活動に必ず活かされることでしょう。

(西出 慶太・野呂 ひとみ)



↓要救助者発見!

↑「引揚救助」に出場した久居消防署チーム

危険物安全週間に伴う

合同訓練の実施

(南分署)

六月第二週(八月〜十四日)に実施された危険物安全週間に先駆け、六月四日、津市雲出伊倉津町地内の明成化学工業株式会社において、有事における初動時の連携と、危険物施設での災害に対する消防の適切な対応を確認するため、合同訓練を実施しました。

従業員は、消防計画等に従い、それぞれの担当において、機敏な対応と状況報告がなされ、消防は久居消防署指揮隊・南分署隊・香良洲分遣所隊が参加し、関係者からの情報を元に、各隊の連携及び危険物施設等への防御態勢について確認しました。

(花井 讓)



↑初動体制を確認!



二処置拡大運用開始

(久居消防署)

五月十七日、救急救命士処置拡大の運用が開始されました。

平成二十四年七月から平成二十五年一月末まで行われた実証研究に基づき、①血糖測定と低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与の実施、②心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保(血管内へ点滴や薬剤を投与する経路)及び輸液(点滴)の二行為が追加されました。

これまで、救急救命士が医師の具体的な指示を受けて行う



↑救急救命士による静脈路確保の訓練風景

ことができる処置は、心肺機能停止後の傷病者に対する処置に限られていましたが、心肺機能停止前の重度傷病者に対して早期に処置ができることで、救命効果の向上につながります。

現在二処置拡大の認定救命士は津市内で三十三名。七月十五日現在で、既に二十七件もの対象事案が発生しています。今後も認定救命士の養成を行い、より質の高い救命活動をしていきたいと思えます。

(野呂 ひとみ)

河芸中公民館で普通救命講習

(河芸分署)

七月三十一日、河芸中央公民館でイセツト株式会社の職員を対象に、普通救命講習が行われました。

警備会社であるイセツトの職員は、契約先が緊急事態で通報をうけて出動するので、「もし現場で心肺停止した人と遭遇したらどうしよう」と不安を感じていたそうです。今回の普通救命講習により

的確な心肺蘇生法を行えるよう、みなさん懸命に取り組んでいました。

(西谷 昂)



↑救命講習に取り組むイセツト職員

ウェイトリフティングで

世界大会に出場

(美杉分署)

八月十六日、兵庫県明石市で開催された第三十二回全日本マスターズウェイトリフティング選手権大会M四十五、九十四kg級に白山消防署美杉分署の水谷一人消防士長が出場し、四連覇、六度目の日本一を果たし、世界選手権への切符を手に入れました。

九月五日にはデンマーク、コペンハーゲンで開催された二〇一四世界マスターズウェイトリフティング選手権に、日本チームの一員としてM四十五、九十四kg級に出場し、個人では八位、団体では三位と、日本チームの入賞に貢献しました。今後とも、消防業務の傍ら練習に励み、世界一を目指しがんばります。

(宮田 憲一)



↑デンマークで開催された世界選手権の様



競技中の水谷消防士長→

美里町五百野地区自治会

防災訓練を実施

(美里分署)

七月二十七日、美里町のふれあいセンター五百野において、五百野地区自治会の防災訓練が実施されました。

各自治会員の自宅から、ふれあいセンター五百野までの避難訓練を実施後、美里方面団の消防団員が訓練指導の中心となり、消火栓取り扱訓練、救急法、「熱中症の対処法、固定法、止血法」の想定訓練を各班に分かれて行いました。

地域住民約六十名が参加し、地域の結束力を感じる充実した訓練となりました。

(鈴木 悠介)



↑消防団員による消火栓の取扱指導

栗真北垣内地区自治会

防災訓練を実施

(北消防署)

六月八日、栗真町屋町の大河内钣金工場敷地内で、栗真町屋町北垣内地区住民による防災訓練が実施されました。



↑消防団員による消火器の取扱指導

北垣内地区は昔ながらの住宅が多く道路も狭隘で、海からも近いいため、普段から災害対応に関心が強い地域であり、毎年防災訓練には多くの住民が参加しています。

今年も、津方面団栗真分団とデージー分団の消防団員及び北消防署職員の指導のもと、地区住民の皆さんは熱心に訓練に取り組んでいました。

(垣野 公孝)

香良洲地域自治会

防災訓練を実施

(香良洲分遣所)

五月二十五日、出水期を前に、香良洲地域で香良洲方面団と地区自主防災会による水防訓練を実施しました。

雲出川と雲出古川に囲まれた香良洲地域は、災害に対する住民の意識が高く、訓練には地区自主防災会と香良洲方面団、香良洲総合支所職員、香良洲分遣所職員の総勢百九十七名が参加しました。

訓練では、積み土のう工法に参加者全員が真剣に取り組みました。

(上杉 茂郎)



↑積み土のう工法を実施する消防団員

安濃方面団、夏期訓練を実施

(安濃分署)

七月六日、安濃小学校において、安濃方面団員約七〇名が参加し、水防工法訓練が実施されました。

訓練は、台風やゲリラ豪雨により堤防の一部が決壊する恐れがあるとの想定で行われ、安濃分署職員指導のもと、積み土のう工法及び月の輪工法がそれぞれ実施されました。

訓練参加者は、暑い日差しの中、真剣な眼差しで訓練に励んでいました。

(溝口 裕紀)



↑月の輪工法を実施する消防団員

白山方面団夏期実践訓練**(白山消防署)**

八月十七日、県立白山高校で白山方面団夏期実践訓練が開催され、白山方面団員、白山高校の職員や生徒、県立一志病院職員、自治会など約二百名が参加しました。

大規模地震により、倒壊家屋内に多数の要救助者が発生したと想定で行われ、消防団員と県立一志病院による救出救護訓練、白山高校の生徒と自治会による初期消火訓練、消防団車両による中継送水訓練が行われました。



↑ トリアージポストで活動する消防団員と一志病院職員

訓練後、川尻白山方面団長から、「地域住民の方や地元病院、学校との合同訓練は初めての経験であり、非常に充実した訓練になった。有事の際は、各ポジションで一致協力して、大災害に立ち向かいたい。」との講評がありました。

(池山 弘)**一志方面団女性消防団員****普通救命講習を実施****(一志分署)**

五月十日、今年四月から新たに入団された一志方面団の女性消防団員九名を対象に、普通救命講習が一志総合支所で行われました。

訓練では、真剣な眼差しで講義を聞き、一生懸命に心肺蘇生法等の実技訓練に取り組んでいました。

今後、女性消防団員は、火災の予防や心肺蘇生法等の応急手当での普及など、防災に関する啓発活動を中心に、男性消防団員や消防署員と連携を図り、より効果的な広報活動を展開します。

(山田 佳幸)

↑ 普通救命講習に取り組む女性消防団員

芸濃女性消防団員による**手作り防災ずきん講座****(芸濃分署)**

八月二十日、一身田老人会婦人部の方を対象とした手作り防災ずきん講座が一身田公民館において開催されました。

手作り防災ずきんは、芸濃方面団の女性分団、ささゆり分団が以前から各地域の婦人会、老人会などからの依頼により、防災啓発活動の一環として実施しているものです。

作り方は簡単でバスタオルを袋状にしたものに、災害時に必要な衣類などを中に詰めてクッション代わりにし、あとは、裁縫糸で縫いつけるだけと

いう短時間で作成できる簡易防災ずきんで、避難時に頭部を保護するだけでなく、避難所における就寝時の枕代わりや座布団としても使用でき、また、中に詰めてある衣類を取り出せば避難時の着替えとして使うことができるなどなかなかの優れたものです。

芸濃方面団の女性消防団員は、これからも要望があれば各地域に赴き、災害時の困難な避難生活を少しでも軽減するための助力となるよう、この講座を通じて防災啓発活動を展開していきます。

(和田 健)

↑ 芸濃方面団ささゆり分団による防災ずきんの指導

津市消防団

県消防操法大会で入賞 (河芸分署・香良洲分遣所)

七月十三日、三重県消防学校で開催された三重県消防操法大会に、津市消防団から河芸方面団と香良洲方面団が小型ポンプ操法の部に出場し、河芸方面団が準優勝、香良洲方面団が三位という輝かしい成績を収めることができました。

約六ヶ月間、消防団員はそれぞれの仕事を終えた後、各方面団の訓練場所で、仲間や家族の応援を受けながら、厳しい訓練に取り組んだ結果が実を結びました。



↑表彰式の模様

【準優勝 河芸方面団】
すごく緊張しましたが本番は完璧でした！



↑河芸方面団



放水！！→

【第三位 香良洲方面団】

今後香良洲地域の安心安全のために、さらなる精進をして消防団活動に取り組みます！



↑大雨の中、操法を実施する香良洲方面団



ガソリンを 貯蔵・取扱う際の留意事項 (消防安全課)

ガソリンは、引火点がマイナス四十℃程度と低く、極めて引火しやすい特性があり、また、電気的不良導体であるため、流動等の際に発生した静電気が蓄積しやすい性質があります。これらの特性を十分理解し次の事に留意する必要があります。

- ①ガソリンを取り扱っている周辺で火気や火花を発生する機械器具等を使用しない。
- ②静電気による着火を防止するため、静電気除去シートに触れる等、除電したうえで危険物を取り扱う。
- ③ガソリン容器からガソリン蒸気が流出しないように、容器は密栓するとともに、ガソリンの貯蔵や取扱いを行う場所は、火気や高温部から離れた通風、換気の良い場所とする。

④ガソリン使用機器の取扱説明書等に記載された安全上の

留意事項を厳守し、特にエンジン稼働中の給油は絶対に行わない。

⑤ガソリンの貯蔵に適した容器で貯蔵する。ポリ容器での貯蔵は不可。

ガソリンは自動車用燃料として使用されるなど、私たちの生活に身近な存在となっておりますが、取扱いを間違えれば大事故につながります。ガソリンの取扱いには十分注意してください。
(田上 祐馬)



ガソリンの保管に適した容器の例
(金属製容器であることが必要)



ポリ容器でのガソリン貯蔵不可

平成二十六年上半期の 火災・救急・救助概況

【火災】出火原因の
三十三%が「たき火」

上半期に発生した火災は七十二件で昨年同期と比較すると十七件減少しました。火災種別では、建物火災が八件減少し、林野火災は九件増加しました。出火原因の一位は「たき火（三十三%）」で周囲の枯れ草や可燃物に延焼し、火災に至っています。風の強い時や空気が乾燥している時には、火の取扱いには十分注意しましょう。

区分	平成26年 上半期	平成25年 上半期	増減	
火災件数合計(件)	72	89	▲17	
火災種別 (件)	建物火災	28	36	▲8
	うち住宅火災	10	20	▲10
	林野火災	14	5	9
	車両火災	3	5	▲2
	船舶火災	0	0	0
	その他の火災	27	43	▲16
死者(人)	2	4	▲2	
負傷者(人)	6	5	1	

▲は減を示す

区分	平成26年 上半期	平成25年 上半期	増減	
出動件数	7,028	6,822	206	
搬送件数	6,337	6,138	199	
搬送人員(人)	6,423	6,215	208	
主要 事故 種別 (出動件数)	急病	4,409	4,220	189
	一般負傷	1,054	1,084	▲30
	交通事故	646	647	▲1

▲は減を示す

【救急】軽症患者が 全体の約五十二%

上半期に発生した救急出動件数は七千二十八件でした。事故種別では急病が四千四百九件と最も多く(全体の約六十三%)、次いで一般負傷が千五百四十四件(約十五%)、交通事故が六百四十六件(約九%)、搬送人員は二百八十八人増加しました。このような状況の中で、搬送した方の約五十二%が軽症患者でした。擦り傷、歯痛、風邪など軽いけがや病気で救急車を呼ばれる方も散見されました。緊急を要さない場合などは、家用車やタクシーなどでおかたりつけの病院へ行きましょう。それが本当に救急車を必要としている貴重な命を救うことになりす。救急車の適正利用に御協力をお願いします。

【救助】交通事故による 救助出動が最多

上半期に市内で発生した救助出動件数は六十一件でした。その主な内訳は、交通事故三十五件で全体の約五十七%を占めました。その他、主な事故種別による出動件数は、水難事故七件、建物等による事故五件、火災四件でした。昨年同期と比較すると、出動件数は同数となりました。出動件数六十一件の内、現場で活動した件数は四十件で三十九人を救助しました。活動件数に入っていない二十一件については、救助隊が到着するまでに自力で脱出したものや、付近住民等により救出されたものです。

区分	平成26年 上半期	平成25年 上半期	増減	
出動件数	61	61	0	
活動件数	40	33	7	
救助人員(人)	39	33	6	
主要 事故 種別 (出動件数)	交通事故	35	29	6
	水難事故	7	6	1
	建物等による事故	5	8	▲3
	火災	4	6	▲2

▲は減を示す

★ 主な行事予定 ★

- ◆十一月八日(土)
消防・防災フェスティバル
(津リージョンプラザお城ホールほか)
- ◆十一月二十四日(月・祝)
平成二十六年度津市総合防災訓練
(津市安濃中央総合公園内
多目的グラウンド)

◆ 一月十一日(日)

津市消防出初式
(津リージョンプラザお城ホールほか)

編集後記

今年の夏は日本全国で大雨による被害が発生しました。八月九日に三重県で大雨特別警報が発表されましたが、その前後で、高知、徳島、京都や広島などで大雨による大きな被害が発生、特に広島では、土砂災害により多くの市民とともに、救助にあたりました。消防士も犠牲となっていました。消防では日々の訓練を通じ、災害に備えています。しかし、大規模災害発生時は、消防だけでなく地域が一丸となって対応していく必要があります。十一月二十四日には市の総合防災訓練が実施されます。皆さんも、いざという時のために、地域などで実施される訓練に参加してみたいかがでしょうか？
(宮田 憲一)

消防・防災フェスティバル

平成26年 **11**月**8**日(土)

- 津リージョンプラザお城ホール
午前10時～午前11時
- お城西公園
午前11時～午後1時



○津リージョンプラザお城ホール
(定員 600名)

午前10時～午前11時 (9時30分開場)

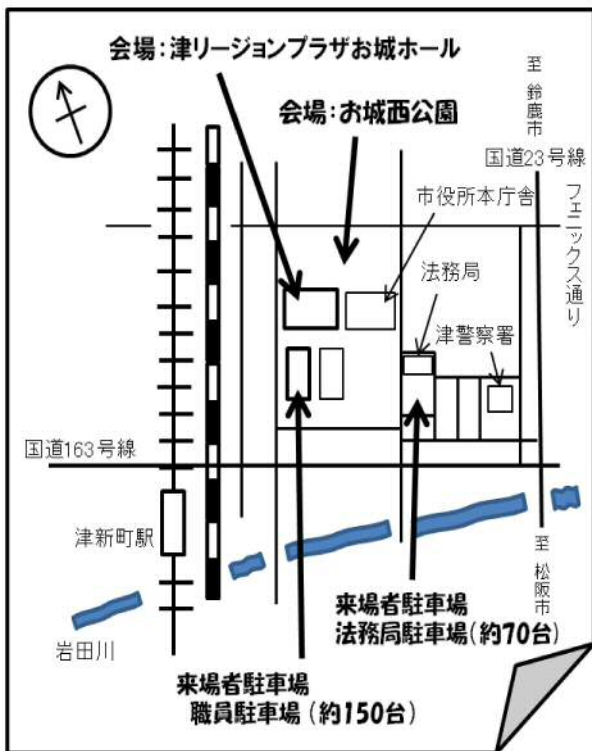
- ・津市消防音楽隊による演奏
「Let It Go (アナと雪の女王主題歌)」
「ようかい体操第一」など
- ・幼年消防隊による演技
- ・避難訓練



○お城西公園 午前11時～午後1時

- ・運転席乗車体験
(水槽付消防ポンプ車・救急車)
- ・消防車両展示
(はしご車・機動連絡車・消防団多機能車・支援車)
- ・電動ミニ消防車・救急車
- ・防火服着体験
- ・心肺蘇生法体験
- ・煙体験
- ・地震体験
- ・紙芝居・防災ずきん作製
- ・はしご車による救出訓練
- ・初期消火体験
- ・ぬりえ
- ・119番通報体験
- ・防災啓発
- ・パトカー等展示

※天候などにより、中止または内容を変更する場合があります。



主催：津市・津市消防本部
 共催：津市消防団
 後援：津市防火協会

○お問い合わせ
 津市消防本部
 消防総務課企画調整担当
 TEL：059-254-0353